
UFJホールディングス

2004年度決算説明会



2005年5月31日（火）

本書には、株式会社UFJホールディングス（以下「当社」という）およびそのグループ会社（以上あわせて「当グループ」という）に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の有価証券報告書、最新のディスクロージャー誌、Annual Report、株主総会招集通知、株式会社三菱東京フィナンシャル・グループから米国証券取引委員会宛に提出したForm F-4をご参照下さい。

また、本書に記載されている当社ないし当グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

なお、本資料の計数は日本会計基準ベースの数値を使用しています。

経営統合に関するリスクファクター

本プレゼンテーションで紹介する経営統合や業績目標の達成およびその他の将来に関する情報には、以下に示したような、さまざまな不確実性やリスクが伴います。これらのリスクの詳しい内容については、MTFGから米国証券取引委員会に提出される予定であるフォームF-4などのMTFGおよびUFJホールディングスの公開情報をご参照ください。

- MTFGとUFJの業務の一体化にあたり直面しうる様々なリスク
 - 両グループの保有ポートフォリオの資産価値が著しく低下するリスク
 - 両グループの国内外の店舗ネットワークや本部機構を一体化させるにあたり直面しうる様々な問題
 - 両グループの事務・システムの一体化にあたり直面しうる様々な問題
 - 両グループの異なる社風や人員をまとめる難しさ
 - 大規模な組織に一律の内部統制システムや情報開示方針などの諸制度を導入・維持する難しさ
 - 戦略的提携先との関係が悪化するリスク
- 統合後の新会社（「MUFG」）の顧客基盤が損なわれるリスクとそれにより事業規模の拡大が困難になるリスク
- マーケット規模が想定どおりに拡大しない結果、下記分野等の収益拡大目標が達成されないリスク
 - 住宅ローン
 - 投資銀行業務
 - 年金業務
 - 投信業務
 - 富裕層向け運用商品
- 業績予想の前提となるマクロ経済シナリオ（特に金利変動シナリオ）に誤差があり、業績予想値が実際の数値と大きく食い違うリスク
- MUFGがその事業戦略の目標を達成できないリスク要因
 - 国内の景気の低迷
 - 国内の株価や不動産価格の低迷
 - 国内の法令諸規制の変更
 - 国内外の競争環境の激化
 - 価格競争が激化する中、やむを得ず手数料率を引き下げるリスク
 - 競争が激化する中、商品性での差別化が困難になるリスク
- ビジネス環境の変化によるリスク
 - 様々な金融商品のクロス・セルが不調に終わるリスク
 - 人員の配置に不具合が生じるリスク
 - 経営統合のシナジー効果を実現できないリスク
- MUFGの事業戦略に関連するリスク
 - 消費者ローンや中小企業向けローンの強化が新たな不良債権問題を生み出すリスク
 - 新商品における金利リスク
 - 海外事業における外国為替変動リスク
- 住友信託銀行のUFJに対する新たな訴訟の提起などにより経営統合またはその日程に遅れその他の影響が生じたり、多大な追加費用が発生するリスク
- 経営統合に必要な当局の許認可等の取得に遅滞または障害が発生したり、許認可等に想定外の条件が付されるリスク

目次

プレゼンテーション

● 2004年度損益の概要	1
● 不良債権問題への対応	
● 金融再生法開示債権残高	2
● 与信関連費用	3
● 保全・引当	4
● 部門別収益の状況	5
● 預貸金損益	6
● 非金利収益	8
● 経費の状況	11
● 株式関係損益	12
● 保有有価証券	13
● 自己資本	14
● 繰延税金資産	15
● 2005年度上期業績予想	16

データブック（別冊）

- 損益の状況
- 資産健全化に向けた取組み
- 収益力強化に向けた取組み
- 自己資本の状況
- 参考資料

< 本資料中の計数の定義 >

HD連結：UFJホールディングス連結

UFJ銀行：UFJ銀行単体

+ UFJストラテジックパートナー（UFJSP）

+ UFJエクイティインベストメンツ（UFJEI）

UFJ信託：UFJ信託単体

+ UFJトラストエクイティ（UFJTE）

2004年度 損益の概要

< HD連結、UFJ銀行 + UFJ信託 >

市場の信認回復に向け、抜本的な不良債権処理を断行

～ 与信関連費用と株式関連費用(不良債権処理関連)合計で約1兆円を計上 ～

(億円)

	HD連結			UFJ銀行 + UFJ信託					
	04年度	03年度	増減	上期	下期	04年度 (計画)	03年度	増減	
業務粗利益	15,778	16,252	473	6,631	6,359	12,991	-	13,623	632
経費 ()	7,304	7,730	425	2,683	2,631	5,315	-	5,677	361
実質業務純益*	8,987	9,215	228	3,947	3,727	7,675	7,450	7,946	271
うち債券関係損益	749	1,212	463	701	56	757	-	1,213	455
臨時収支	13,442	9,698	3,743	16,037	1,132	14,905	-	8,794	6,110
うち株式関係損益	1,336	2,391	3,728	1,002	1,250	2,252	-	3,275	5,527
うち投資損失引当金繰入額	30	1	28	1,349	703	645	-	519	126
経常利益	4,968	3,976	991	5,355	1,939	7,295	6,350	4,272	3,023
特別損益	2,622	659	1,963	455	2,773	3,228	-	905	2,323
うち貸倒引当金戻入額等	1,717	-	1,717	-	2,203	2,203	-	256	1,946
法人税等調整額	2,801	369	2,431	2,198	541	2,739	-	353	2,386
当期純利益	5,545	4,028	1,517	7,104	285	6,819	8,250	3,755	3,063
与信関連費用	8,755	13,760	5,005	6,141	1,748	7,890	9,700	13,115	5,225

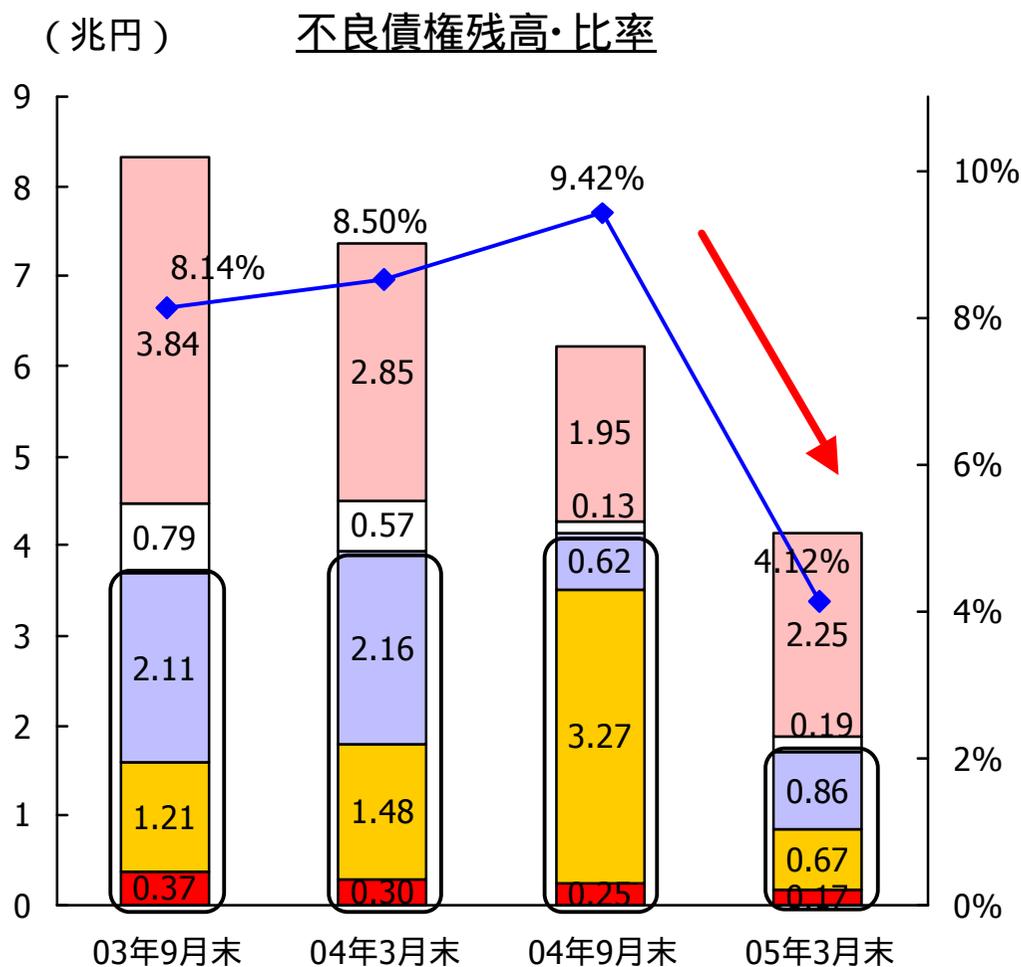
* 連結実質業務純益 = 子銀行単体実質業務純益 + 当社単体利益 + その他連結子会社利益 + 持分法適用会社利益 × 持分比率 ± 内部取引等連結調整

不良債権問題への対応（金融再生法開示債権残高）

< UFJ銀行 + UFJ信託 >

05年3月末不良債権残高：1.7兆円（04年9月末比 2.4兆円）

～ 開示不良債権比率は4.12%に



04年9月末比残高増減要因

（億円）

正常債権* への格上げ	10,800
正常債権* からの格下げ	3,600
債権放棄	3,600
債権売却	5,900
回収・償却など	7,700
合計	24,400

* 正常先債権、その他要注意先債権

- その他要注意先債権
- その他の要管理先債権
- 要管理債権
- 危険債権
- 破産更生等債権
- ◆ 不良債権比率
- 金融再生法開示債権

不良債権問題への対応（与信関連費用）

< UFJ銀行 + UFJ信託 >

04年度与信関連費用：7,890億円（予想比 1,810億円）

～ 大口先再生に必要な手当は完了

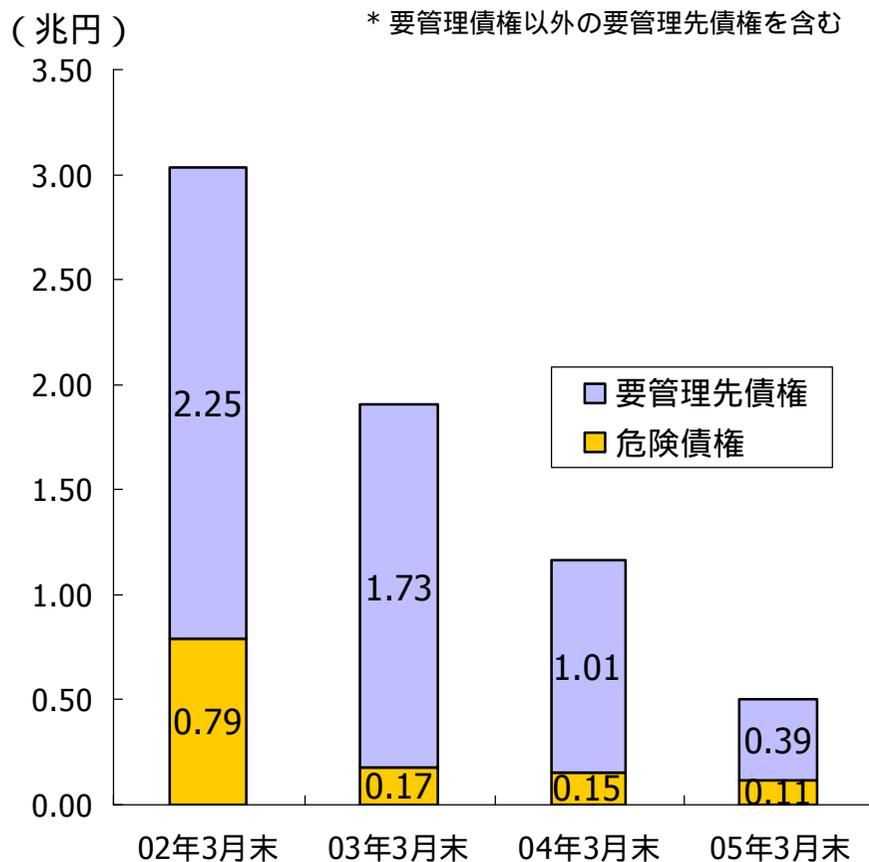
(億円)					05年度 上期見込
	上期	下期	04年度	04/11/24時点 見込	
大口先*	2,301	1,172	1,128	800	
大口先以外	2,253	553	1,698	3,650	50
債務者の業況悪化等 （格上げ分ネット後）	2,702	1,298	4,000	3,650	800
担保価値下落・流動化コスト	643	589	1,232	2,000	300
保全強化・回収に伴う 引当戻入れ	858	2,086	2,944	2,000	1,050
償却債権取立益	234	354	589		
引当率変更影響	1,588	3,474	5,062	5,250	1,800
統合影響					1,200
計	6,141	1,748	7,890	9,700	550

* 大口債務者のうち、04年3月末時点で、対応が急務であった先

要管理先・危険債権の非保全部分は0.5兆円まで減少（05年3月末）

～ 要管理先以下債権の無担保部分引当率は60.15%

要管理先債権 * ・危険債権非保全部分の推移



要管理先以下債権全体に対する保全率

73.41%

破産更生等債権 **100.00%**

危険債権 **83.31%**

要管理先債権 **62.61%**

担保評価の状況（04年度）

	件数	売却価格 (億円)	評価額 (億円)
自行による評価	139	233	157
子会社による評価等	1,504	5,737	3,873
計	1,643	5,971	4,030

部門別収益の状況

< UFJ銀行 + UFJ信託 >

リテール・法人とも、前年同期を上回る業務純益を計上
 ~ 市場性収益減少により業務純益全体では減益に ~

	04年度 (計画)	03年度	増減	(億円)	05年上期 (半期計画)
業務粗利益					
UFJ銀行	11,403	11,320	11,982	578	5,176
リテール	2,920	2,916	2,885	34	1,502
法人	5,359	5,429	5,224	135	2,665
市場国際	1,715	1,677	1,904	189	816
その他	1,409	1,298	1,968	559	193
戦略支援G*	740	806	1,076	336	313
円貨債券投資	1,086	1,122	1,494	408	250
UFJ信託	1,587	1,610	1,641	53	729
合計	12,991	12,930	13,623	632	5,905

*05年度より戦略支援Gは法人カンパニーに統合。ここでは従来開示と平仄を併せる為、別々に掲載

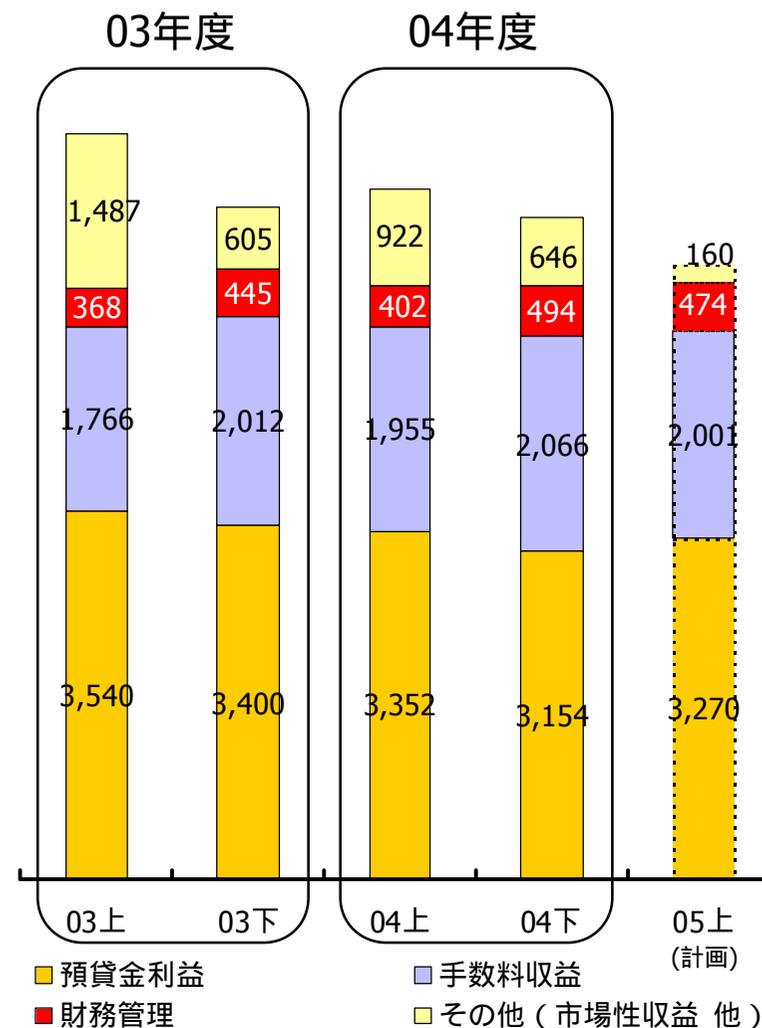
経費 ()	5,315	5,480	5,677	361	2,755
--------	-------	-------	-------	-----	-------

	04年度	03年度	増減	(億円)	05年上期 (半期計画)
実質業務純益					
UFJ銀行	6,802	6,600	7,081	278	2,800
リテール	828	824	706	122	502
法人	3,370	3,439	3,192	179	1,670
市場国際	1,247	1,187	1,422	176	595
その他	1,357	1,150	1,761	404	33
UFJ信託	872	850	864	7	350
合計	7,675	7,450	7,946	271	3,150

< ホールディングス連結 >

経常利益	4,968	5,300	3,976	991	2,600
------	-------	-------	-------	-----	-------

業務粗利益 (億円)

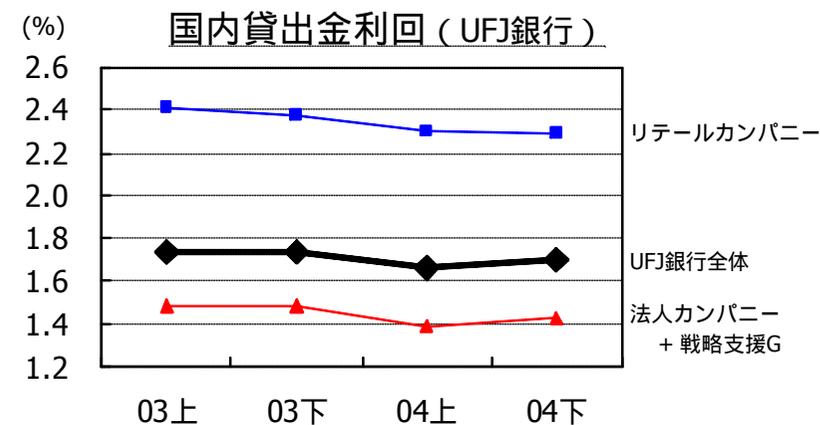
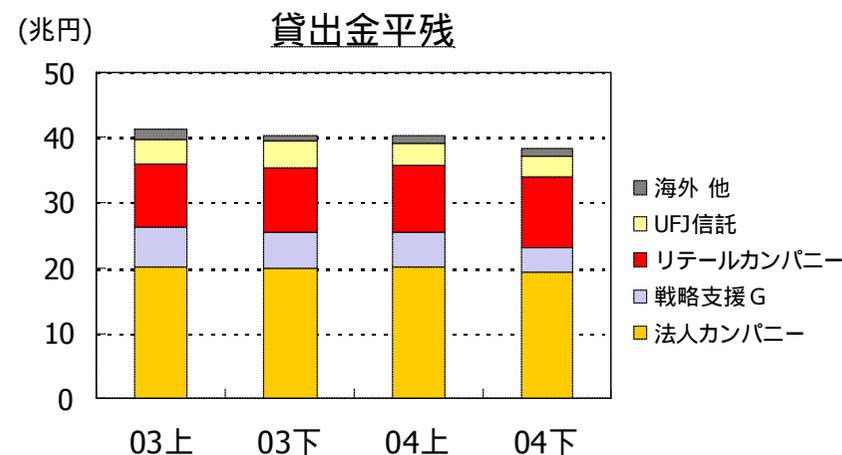
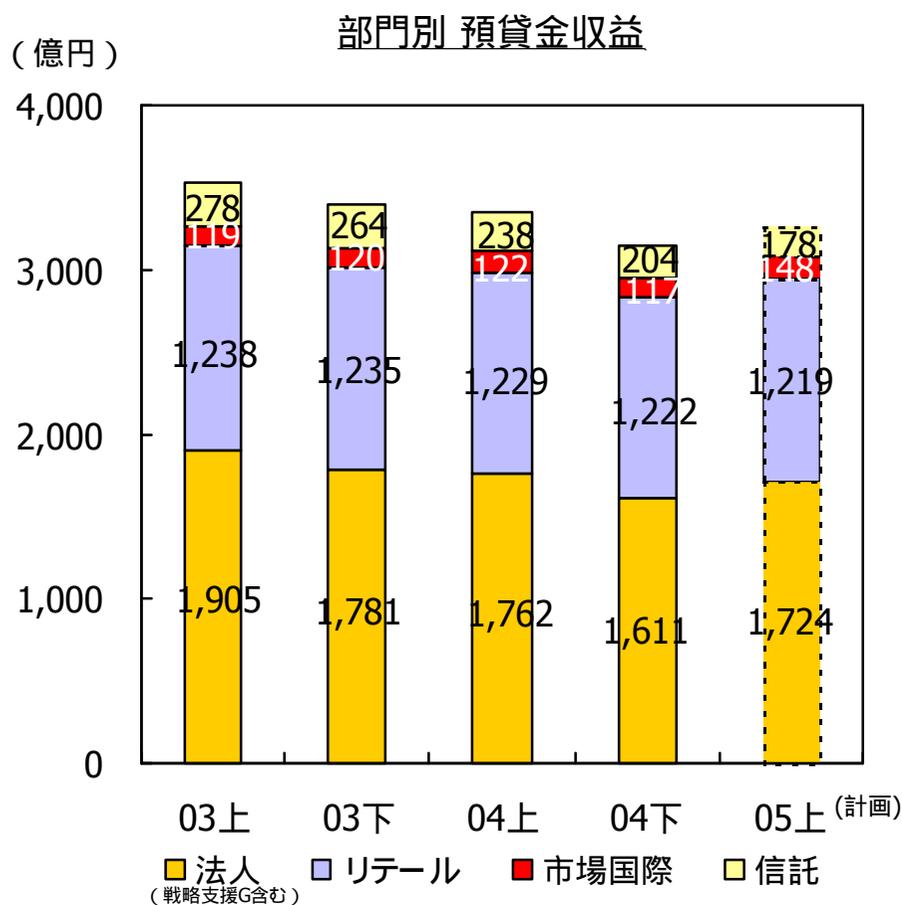


預貸金収益 (1)

< UFJ銀行 + UFJ信託 >

ミドル・リテール向け貸出の増強により収益性の高いポートフォリオを目指す

- ~ リテール貸出：住宅ローンを中心に残高順調に積上げ、競争激化によりSPは低下
- ~ 法人貸出：ビジネスローン推進等により、中堅・中小企業向け貸出平均残高は増加へ
- ~ 不良債権処理の進展により貸出残高は減少（戦略支援G平残 1.3兆円）



預貸金収益 (2)

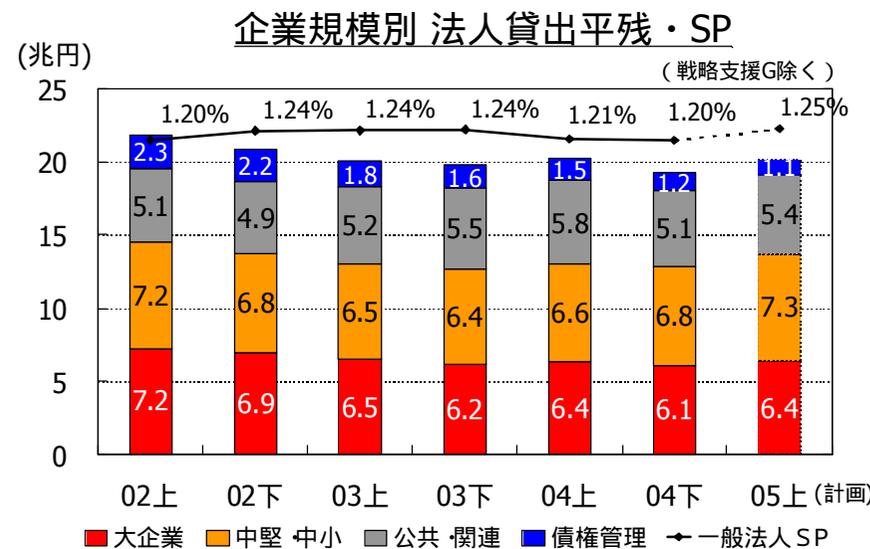
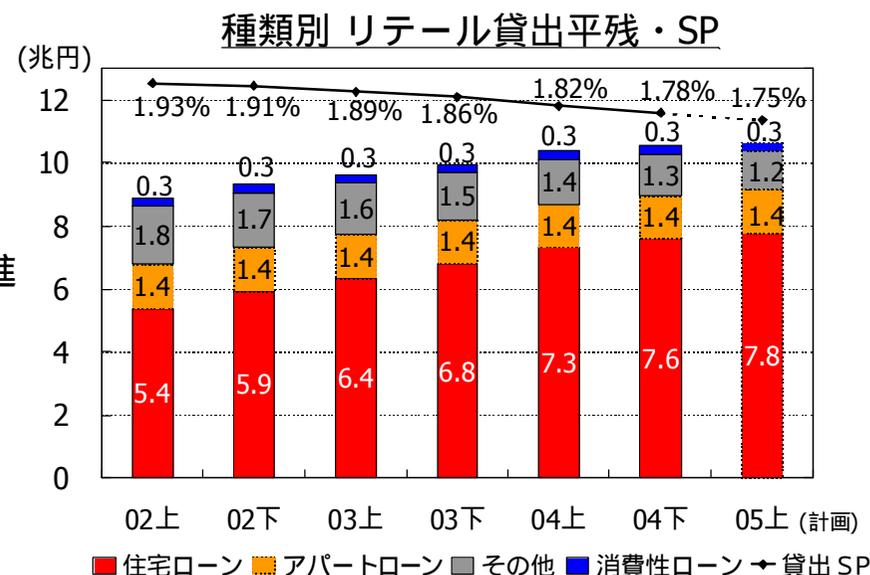
< UFJ銀行 >

リテール貸出業務

- 住宅ローン：平残+8,937億円、SP 8bp (前年度比)
 - 04年度新規取組み額：1.56兆円
 - 住宅販売業者営業の強化と企業提携・店頭獲得を推進
 - 競争激化によりスプレッドは低下
- 消費性ローン：平残+10億円、SP+70bp (前年度比)
 - デフォルト率の上昇に対応し貸出金利を平均約1.5%引き上げ(下期)

法人貸出業務

- 大企業：平残 1,302億円、SP 6bp (前年度比)
 - 企業の財務リストラなどにより貸出残高減少
- 中堅・中小企業：平残+2,184億円、SP 3bp (前年度比)
 - 中小企業“熱烈支援”の推進などにより中堅・中小企業向け貸出残高を積み上げ
 - ビジネスローン実行額6,110億円(04年度)
 - 小規模法人・個人事業者向け新型カードローン「BIZWAY」を05年5月よりスタート
- 高SP貸出の積み上げによりポートフォリオSPの改善図る



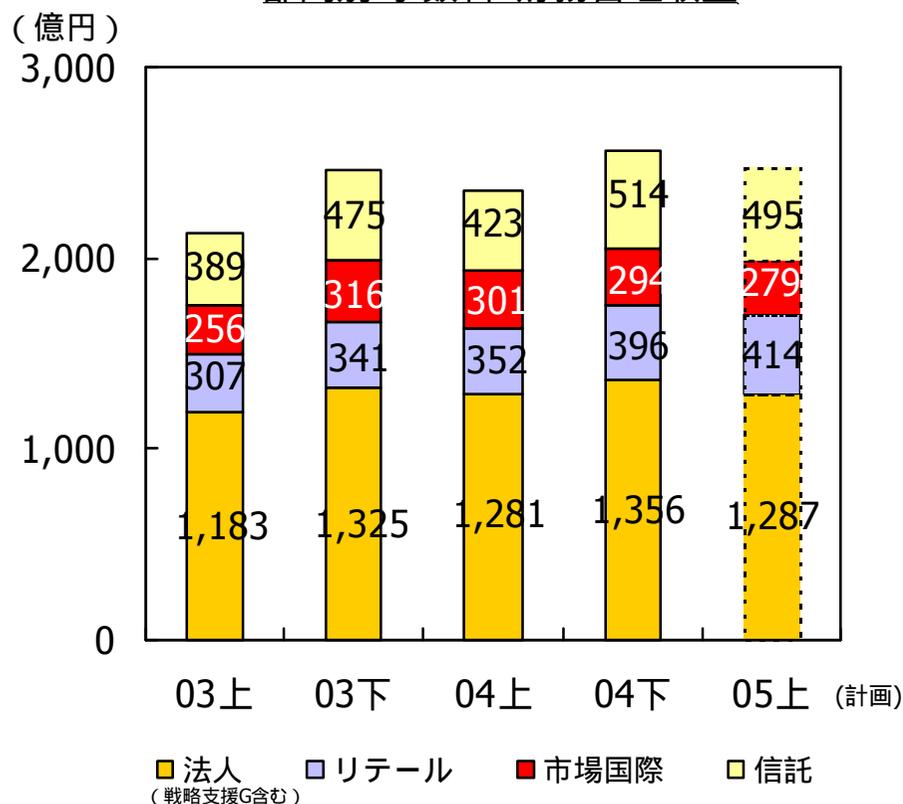
非金利収益 (1)

< UFJ銀行 + UFJ信託 >

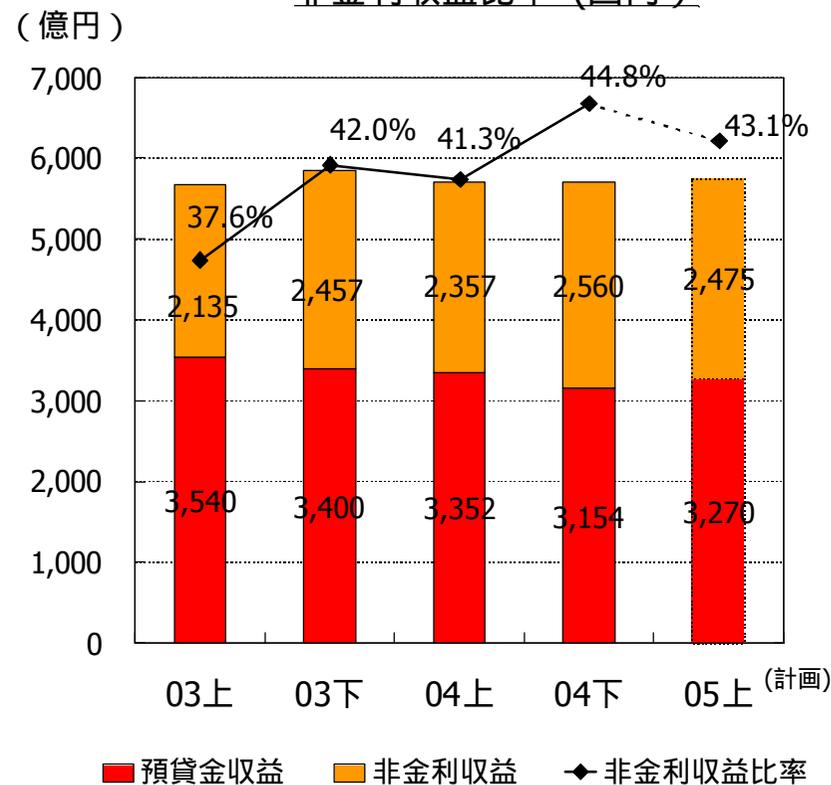
手数料・財管収益は順調に増加、非金利収益比率*は43.1%に（前年度比+3.3%）

- ~ リテール：個人年金保険を中心とした運用商品販売額が大幅に増加（手数料収益：前年度比+15.6%）
- ~ 法人：小口・定型化による中堅・中小企業への業務推進が定着（手数料収益：前年度比+7.8%）
- ~ 信託：グループ連携強化により不動産関連収益が着実に増加（財務管理収益：前年度比+10.2%）

部門別 手数料・財務管理収益



非金利収益比率*(国内)



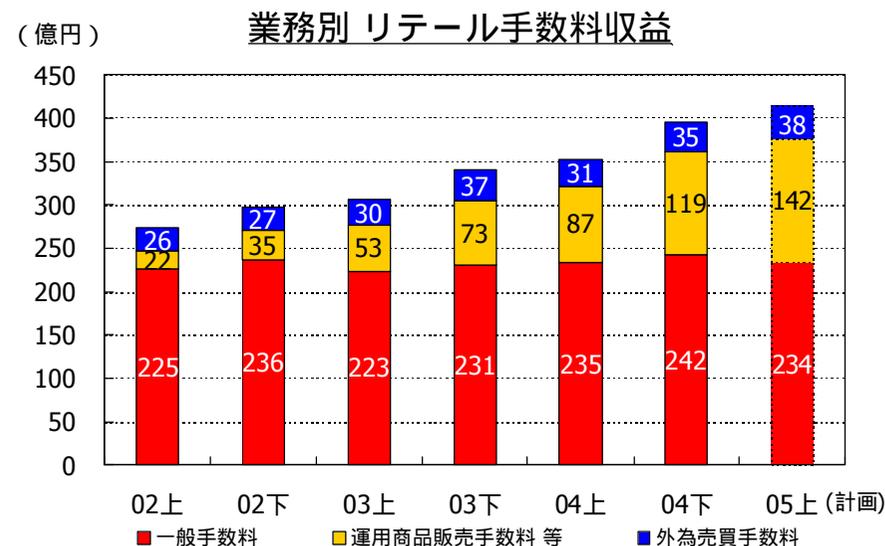
* 非金利収益比率 = 非金利収益 / (預貸金収益 + 非金利収益)
 非金利収益 = 手数料収益 + 財管収益、(市場性収益、海外店収益を除く)

非金利収益 (2)

< UFJ銀行 >

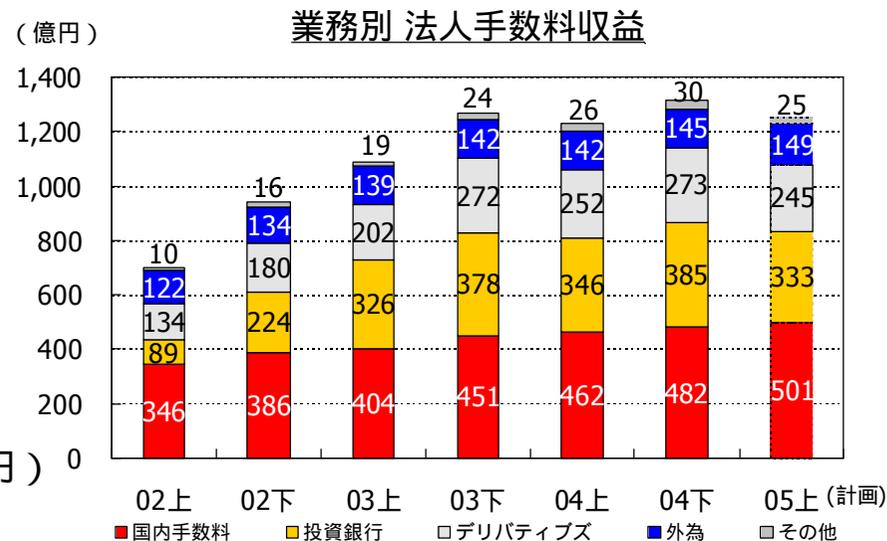
リテール手数料収益業務

- 運用商品販売収益：206億円（前年度比+80億円）
 - 個人年金保険販売額が飛躍的に増加
 - 人材育成・商品ラインナップの充実化により販売力が向上
 - 04年下期より営業管理インフラ（スーパーCRM）導入
- ATM関連手数料：334億円（前年度比+30億円）
 - 消費者金融などとのキャッシング提携充実化等
 - MTFGとのATM相互開放スタートにより利便性向上



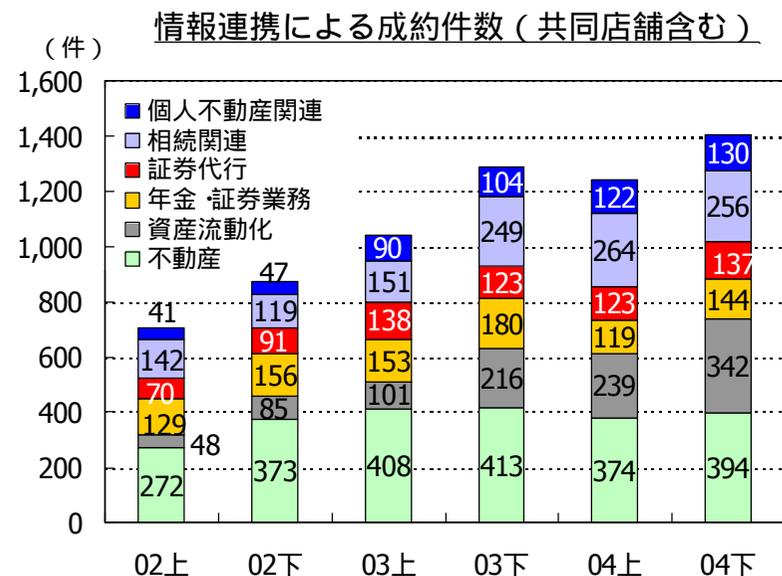
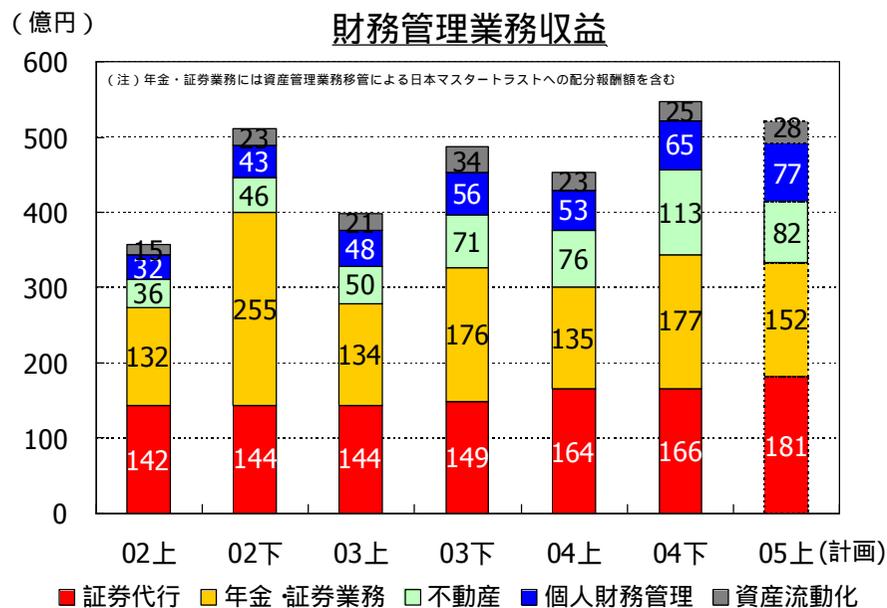
法人手数料収益業務

- 決済業務収益：754億円（前年度比+41億円）
 - 貸出と決済業務を一体化した商品の開発・販売強化
 - EB・CMS導入により決済取引拡大を図る
- 投資銀行業務収益：731億円（前年度比+26億円）
 - 私募債、シ・ローン、アセットファイナンス等の営業拠点における推進が定着
- デリバティブズ販売収益：525億円（前年度比+51億円）
 - 為替相場変動を受け為替系商品中心に好調



信託財務管理業務

- 粗利益実績：896億円（前年比 +83億円）
 - 証券代行：既先防衛、委託替えの取組強化により、過去最高益更新
 - 不動産：グループ内の情報連携強化により、仲介・流動化受託とも増益
 - 資産流動化：次世代基幹商品の本格展開に向けて体制確立
 - 年金・証券業務：資産管理業務のマスタートラスト移管(影響額 32億円)、厚生年金代行返上の影響により減収
 - 個人財務管理：投信・投資型年金保険販売好調
- UFJ銀行顧客へのサービス提供は着実に進展
 - 法人：02年3月よりスタートした信託代理店制度は、順調に拡大
 - 個人：05年1月より相続関連業務をUFJ銀行全ての店舗で取扱い開始（信託代理店）



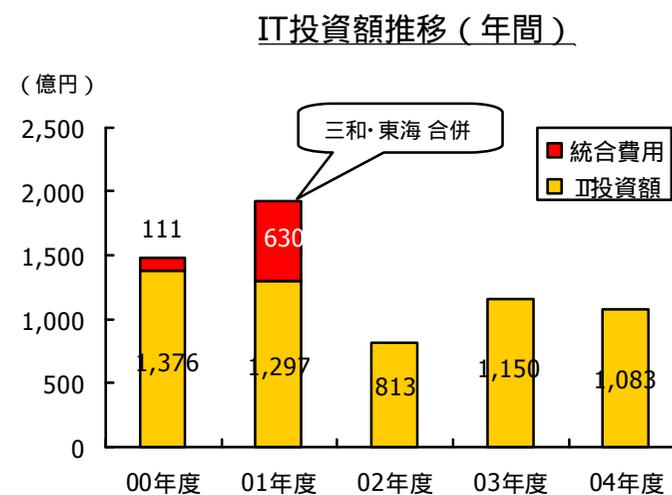
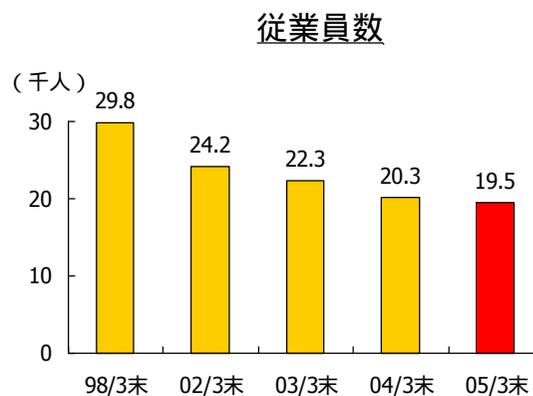
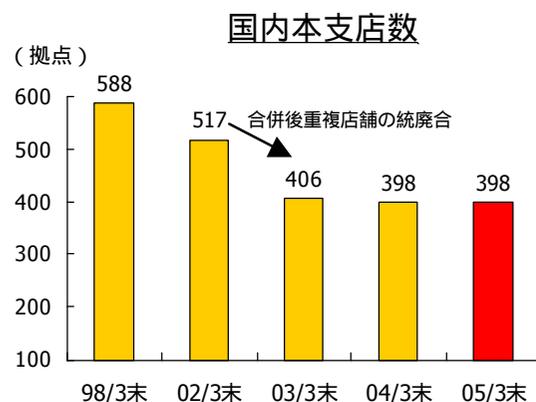
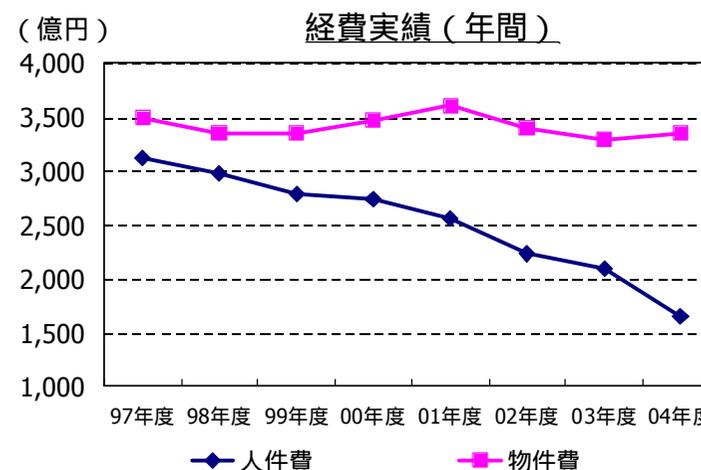
人員削減・賞与カットを中心に経費減少

(億円)

< 単体 >	04年度		03年度	増減
		(計画)		
経費	5,315	5,480	5,677	361
人件費	1,655	1,749	2,102	446
物件費	3,355	3,411	3,290	64

04年度 経費実績

- 人件費：人員削減・賞与カット・新処遇制度の一層メリハリをつけた運用により、前年度比 446億円
- 物件費：収益強化に向けた投資積極化により前年度比 +64億円



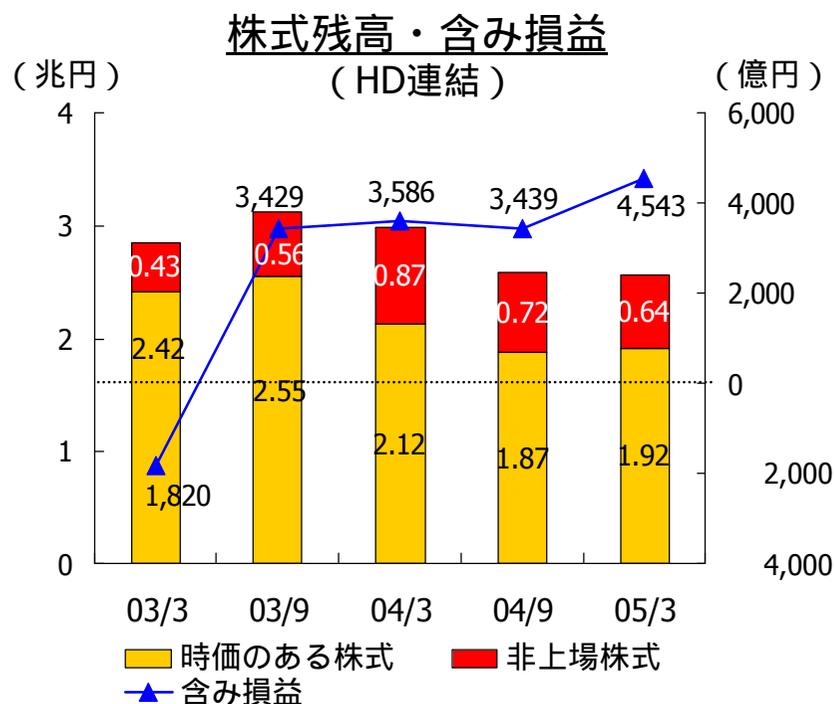
優先株式、子会社株式減損を主因に株式関係損益は 2,252億円に

(億円)			04年度
	上期	下期	
株式関係損益	1,002	1,250	2,252
売却益	1,636	495	2,132
売却損	53	265	319
償却	2,585	1,480	4,065
うち優先株式	1,441	1,218	2,659
うち信用保証子会社等株式	1,059	253	1,312
投資損失等引当金繰入額	1,349	703	645

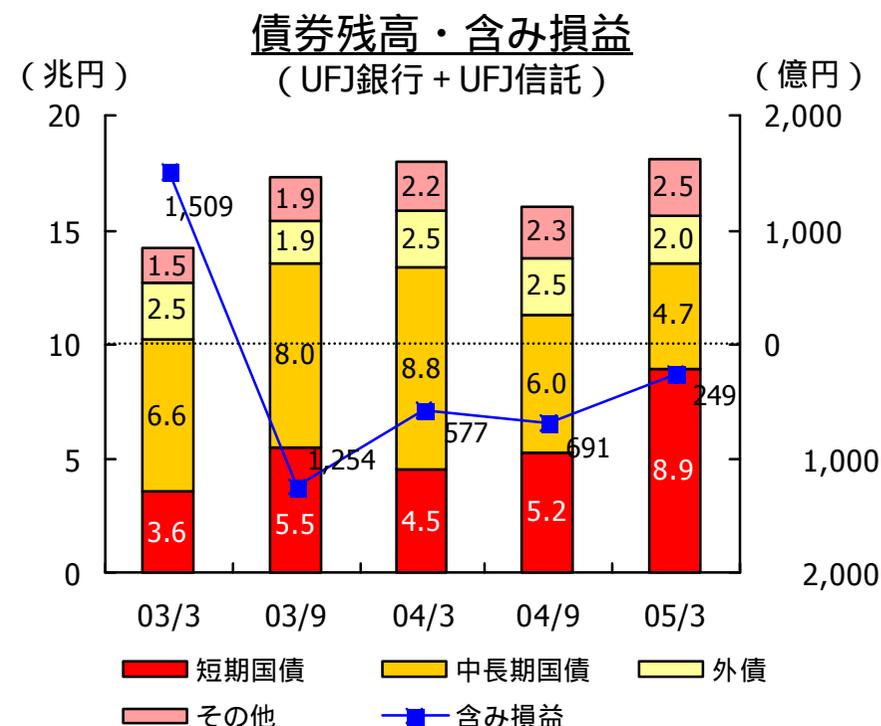
株式減損の基本ルール

- 時価が簿価に比べて50%以上下落
ただし、要注意先（含む要管理先）の株式は40%以上、破綻懸念先の株式は30%以上下落した時点で減損
- 優先株式に関する特則：（合理的な再建計画において、当該種類株式を100%減資する場合）備忘価格まで減損処理
（100%未満減資する場合）支援実施後の状況に基づき上記基本ルールを適用
- DESで取得した株式に関する特則：上記に加えDES実施時に消滅した債権額に予想損失率を掛けたものが減損処理額を上回る場合、その差額を投資損失引当金に計上

その他有価証券全体で3,989億円の含み益 (HD連結 04年9月末比 + 1,478億円)



- 株式売却実績：5,504億円
- 約5割はブロックトレードにて売却
- 05上期売却計画：850億円



JGBデュレーション (バンキング勘定)

(年)	04/3	04/9	05/3	05/3末残高
UFJ銀行	3.52	2.68	1.79	12.2兆円
UFJ信託銀	5.14	4.71	4.52	1.3兆円

金利感応度 (BPV) (UFJ銀行+UFJ信託)

(億円)	04/3	04/9	05/3
円債	45.8	32.0	26.6
外債	5.4	6.8	6.5

注) 04年度より円債から私募債を除いたことで04/9末・05/3末は約5億円のBPV低下効果

自己資本

< HD連結、UFJ銀行連結、UFJ信託連結 >

自己資本比率は UFJHD連結 10.39%に

(億円)

	05年3月末			04年9月末			04年3月末		
	UFJHD	UFJ銀行	UFJ信託*	UFJHD	UFJ銀行	UFJ信託*	UFJHD	UFJ銀行	UFJ信託*
自己資本	45,131	41,615	4,005	42,882	39,574	3,304	42,686	35,003	5,326
Tier1	23,134	21,240	3,093	22,039	20,211	2,456	21,752	17,890	3,610
Tier2	22,786	21,109	1,798	21,591	20,068	1,692	21,752	17,890	1,759
リスクアセット	434,059	396,800	30,933	432,077	394,191	34,809	461,859	418,499	41,382
自己資本比率 (%)	10.39%	10.48%	12.94%	9.92%	10.03%	9.49%	9.24%	8.36%	12.87%
Tier1 比率 (%)	5.32%	5.35%	9.99%	5.10%	5.12%	7.05%	4.70%	4.27%	8.72%

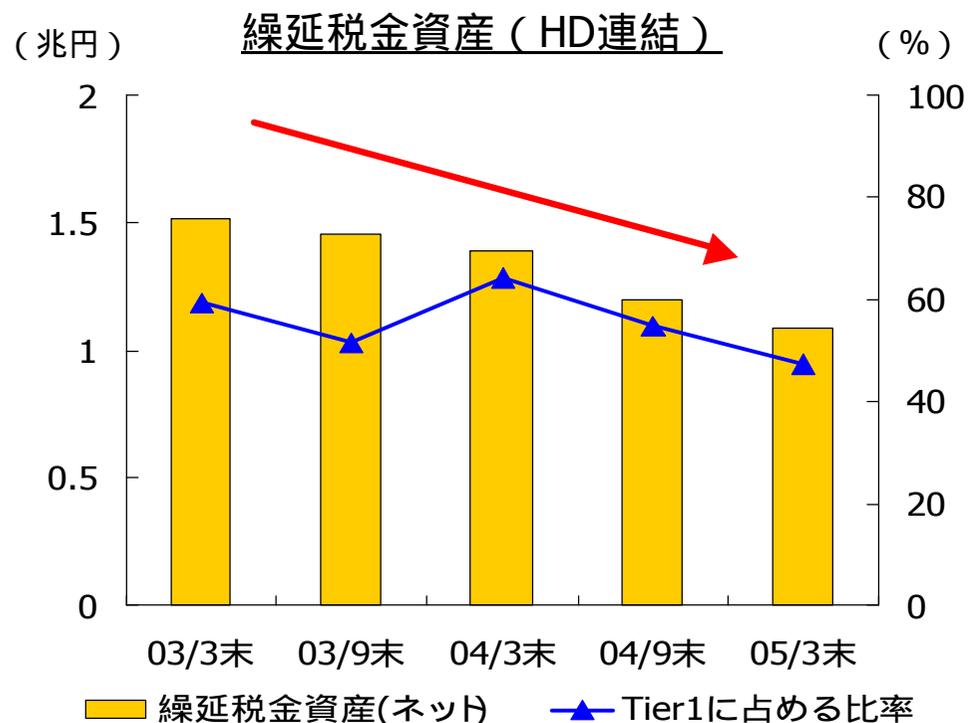
* UFJ信託銀行は国内基準適用行であるが、ここでは国際統一基準にて表示 (05年3月末 国内基準自己資本比率は11.93%)

- 04年度の動き： UFJホールディングスにて連結損失5,545億円計上
 UFJ銀行にて三菱東京FGより7,000億円の資本を受入れ (04年9月)
 UFJ信託銀行からUFJ銀行へ800億円の資本再配分を実施 (04年9月)
 UFJホールディングスがUFJ銀行発行の優先株式500億円を引受 (05年3月)
- 05年9月末の連結自己資本比率見込み： UFJHD 10%台前半、UFJ銀行 10%台半ば、
 UFJ信託銀行 12%程度 (国内基準)

繰延税金資産(ネット、HD連結)は1兆936億円 (04年9月末比 1,123億円)

~ Tier I に占める繰延税金資産は 47.2%

- 04年度2行合算実質業務純益 7,675億円に対し、7,030億円 / 年の保守的な実質業務純益を前提に将来課税所得を見積もり
 - 実質業務純益(5年・2行合算) : 3兆5,151億円 (7,030億円 / 年)
- 評価性引当額 : UFJ銀行 10,138億円、UFJ信託銀行 1,079億円



2005年度上期 業績予想

< HD連結、UFJ銀行 + UFJ信託 >

UFJHDの上期連結当期純利益を1,400億円と予想

- ~ 与信関連費用：戻り550億円（単体合算、うち統合影響コスト1,200億円*を見込む）
- ~ その他統合関連コスト1,100億円*（単体合算）を見込む

UFJHD連結

05上期 (予想)	04上期	04年度
--------------	------	------

(億円)

経常収益	10,800	12,110	23,053
経常利益	2,600	4,748	4,968
当期純利益	1,400	6,742	5,545

UFJ銀行 + UFJ信託

05上期 (予想)	04上期	04年度
--------------	------	------

(億円)

実質業務純益	3,150	3,947	7,675
経常利益	1,950	5,355	7,295
当期純利益	1,350	7,104	6,819

与信関連費用	550	6,141	7,890
--------	-----	-------	-------

* 05年度(通期)に統合関連の臨時損益・特別損益としてUFJ・MTFG合算で約3,600億円を見込んでいます。

米国証券取引委員会 (SEC) への文書提出

株式会社三菱東京フィナンシャル・グループ(「MTFG」)は、株式会社 UFJ ホールディングス(「UFJ」)と MTFG の経営統合に伴い、Form F-4 による登録届出書を米国証券取引委員会(「SEC」: U.S. Securities and Exchange Commission) に提出いたしました。Form F-4 には、目論見書 (prospectus) 及びその他の文書が含まれています。UFJ は、当該経営統合を承認するための投票が行われる予定である株主総会の実施日前に、Form F-4 の一部として提出された目論見書をその米国株主各位に対して発送する予定です。Form F-4 及び目論見書には、MTFG に関する情報、UFJ に関する情報、本経営統合、及びその他の関連情報などの重要な情報が含まれています。UFJ の米国株主におかれましては、UFJ 株主総会において本経営統合について決定なさる前に、本経営統合に関連して SEC に対して提出された Form F-4、目論見書、及びその他の文書を注意してお読みになるようお願いいたします。Form F-4、目論見書、及びその他、本経営統合に関連して SEC に提出される全ての文書は、提出後に SEC のホームページ (www.sec.gov) にて無料で公開されます。なお、株主の皆様には、本経営統合に関連して SEC に提出される目論見書及びその他全ての文書を無料で配布させていただきます。配布のお申し込みは、お電話・お手紙・電子メールにて承ります。

MTFG担当者:

Mr. Hirotsugu Hayashi
〒100-6326
東京都千代田区丸の内2丁目4番1号
丸の内ビル26F
電話 : 81-3-3240-9066
メール : Hirotsugu_Hayashi@mtfg.co.jp

UFJ担当者:

Mr. Shiro Ikushima
〒100-8114
東京都千代田区大手町1丁目1番1号
電話 : 81-3-3212-5458
メール : shiro_ikushima@ufj.co.jp

さらに、MTFG は、Form F-4、目論見書、及びその他、本経営統合に関連して SEC に提出する全ての文書に追加して、年次報告書 (アニュアル・レポート) 及びその他の情報を SEC に提出することが義務づけられます。これらの SEC に提出される報告書及びその他の情報等については、SEC 内に設置されている公開閲覧室 (public reference rooms 住所 : 450 Fifth Street, N.W., Washington, D.C. 20549) 又はニューヨーク州ニューヨーク市・イリノイ州シカゴ市の公開閲覧室において閲覧・コピーが可能です。公開閲覧室に関する詳しい情報については、SEC までお電話にてお問い合わせ下さるようお願いいたします。(電話番号 : 1-800-SEC-0330) なお、SEC に提出された文書は、SEC のホームページ (www.sec.gov) 又は民間の文書検索サービスを通して入手可能です。

将来の見通しに関する記述

本書には、MTFG、UFJ、及び本経営統合完了後の事業についての将来の見通しに関する情報及び記述が含まれています。将来の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述を意味します。こうした記述には財政状態に関する見通し及び予測 (financial projections and estimates) 及びその前提、将来の事業・製品・サービス等に関する計画・目的・期待に関する記述、並びに将来のパフォーマンスに関する記述が含まれます。将来の見通しに関する記述は、一般に、期待する ("expect,") 予想する ("anticipates,") 考える ("believes") 意図する ("intends,") 予測する ("estimates") 又はその他これに類似した表現により特定されます。MTFG 及び UFJ の経営陣は、そうした将来の見通しに関する記述に反映されている期待は合理的なものであると考えますが、将来の見通しに関する情報及び記述は、様々なリスクや不確定要素により影響を受ける事にご注意下さい。その多くは予測困難かつ MTFG 及び UFJ の統御を越えたものである為、将来の見通しに関する記述の中で言及・示唆・予測されている情報及び記述は、実際の結果や状態と大きく異なる可能性があります。かかるリスクと不確定要素には、MTFG が SEC に提出した Form F-4 登録届出書に含まれる目論見書の "Cautionary Statement Concerning Forward-Looking Statements" (将来の見通しに関する記述についての注意事項) 及び "Risk Factors" (リスク要因) の項に列挙されたもの等を含めて、MTFG 及び UFJ が SEC 又はその他の現地当局へ公式に提出した文書中で検討又は指摘されている事項が含まれます。MTFG 及び UFJ は、適用法により義務づけられている場合を除き、将来の見通しに関するいかなる情報及び記述もそれを更新又は改定する義務を一切負わないものとします。